

# 飲水思源

いんすいしげん

町長 松岡市郎

## 秋は何が一番 秋の夜の夢!?

秋の来ない年はないのであるが、早いものでもう終わりに近づいている。秋は何が一番かと問えば「秋は読書、スポーツ、紅葉、お米や野菜の味覚」と一般的に答えると思う。

東川町に住んでいる人なら「街中から見る旭岳を中心とした大雪山」と答える人も多いことだろう。旭岳の初冠雪、そして冠雪後の山並み、晴れた日の空の青さと白い山並みとのコントラストは実に絶景なのだ。秋は最も贅沢(ぜいたく)な季節でもある。

ある先輩が「町長、挨拶の時に夢を語りなさい」と言うのである。「言うは易(やす)し、語りは難(かた)し」である。性格が単純なこともあり、夢を語るには夢を見ることが一番だと考えたのだが、なかなか夢のある夢を見ることができないものである。

ある人いわく「夢はね、秋の夜の夢が一番!!」と言う。どうしてか? 「『春の夜の夢のごとし』と、昔から春の夢ははかない」と平家物語に出てくる。「春は日中が長く、夜の時間が短い」から夢みる時間も短い。だから「秋は春の逆で夜が長い。秋が最高の夢みる季節だ」と力説する。理にかなった話ではあるように

思える。

夢といえば、日本の総理大臣の奥様が「私は宇宙人。太陽をパクパク食べた。UFOで金星へ行った」と語ったそうである。

太陽をどのように食べるのか? 太陽に向かって両手を広げて「パクパク」と言いながらエネルギーを呼び寄せるように食べるそうである。由紀夫さん(総理大臣)もやっているのだという。私の夢と問われれば「私は日本人。毎朝ごはんをパクパク食べた。車で役場へ行った」程度である。この夢も秋に見たのかと勝手に想像しながら、それにしても大きな夢を語ることが出来るものである。実に幸せな方だと思っていながら、奥様の名前がなんと「幸(みゆき)」さんだった。名は体を表すとはこのことか。

時には、これはいい夢だ、と思えるものがある。書き留めておこうとすると消えている。秋の夜の夢も春のごとし。現実、夢や理想となかなか一致しないものである。これを表現するのもリーダーシップである。秋の夜長、住民の笑顔が絶えない、住民が自慢する、住民が相互に「ありがとう」と言える「写真の町」の実現に向かって思いを巡らす。実現できる夢を見たいものである。

## 短歌

草露に宿りし月影畦道を稲かけ終えて帰りし若き日  
国政も日ハム勝敗にも興味あり黄泉の夫への土産ばなしに  
廃校に児らのささめき聞えねどもくげ一樹が咲き満ちて  
寄り添って生きる余生のいくばくか齢相応の病かかえて  
敬老を祝いて娘は金一封神棚に上げお守りとなし  
人の世の起伏をこえて八十年只々雲の動くを見てゐる  
孤独とは自由ととなり合せなり秋晴れの日をひとり街へ行く  
吾が畑のへば茄子胡瓜ミ下マト食卓にぎわしひと夏終えむ  
子ら孫ら夫の米寿を祝いくれ宴の席に輝く笑顔

## 俳句

新米のようにありたし人の味  
木の実雨急ぎて下る男坂  
秋夜長心の棘を宥めおり  
銀杏の落つる乙女のさざめかし  
おくりびとの役二度なせり木の実雨  
鬼胡桃美を秘めたる深き皺  
離陸機の水平飛行や翳雲  
寝待月おぼろに見ゆる藁屋かな  
柿をむく皮持ちて待つ子のために  
木漏れ日に影絵のごとし森の秋  
鈴の音と人語響けりきのこ狩り  
いけ垣のちろちろ明き木の実かな  
木の実落つ悟りきったる顔みせて

松倉和子  
矢沢ますえ  
宮坂敬子  
中田治子  
岡澤チズ子  
笹田富士子  
瓜生昭枝  
嶋崎ミエ  
永江栄子  
三島智  
長谷川きみ糸  
小林露葉  
青野公花  
宮坂紫雲  
杉山ひろのり  
徳光吐苦  
杉山りつ  
山口佐知子  
高瀬潤  
石澤清宏  
澤田久美子  
松山蓉子